

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2013 年度は委員会を 4 回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

- 第 1 回(5 月 17 日) ①2013 年度各種委員会委員構成について
②専門部会及び分科会内規の改正について
- 第 2 回(6 月 24 日) ①2014 年度教育・研究に関する年度計画書について
- 第 3 回(10 月 25 日) ①2014 年度予算編成方針及び図書館予算について
②2014 年度電子資料(エルゼビア社)契約について
- 第 4 回(2 月 26 日) ①2014 年度図書館の予算削減への対応について
②2014 年度図書費配分について
③2014 年度図書館各種資料申込みについて
④蔵書印, 所蔵印の運用に関する内規の改訂について

以上にに基づき実施された政策の特記事項として, 以下が挙げられる。

- 2012 年度に推進を決定した逐次刊行物費抑制のための購読契約形式変更について, 学内説明会を実施し, 一定の理解を得, 契約変更を実施した。
- 2014 年度大学財政状況により, 図書館予算の削減も必須となった。そのため, 予算削減への対応策として, 資料費のうち学習用図書費及び研究用図書費の約 40%の削減, 開館業務について平日開館時間縮小及び休日開館日数縮小を決定した。

2.2 特別資料選定分科会

2013 年 5 月 27 日に第 1 回選定分科会を開催し審議を行った。その結果, 応募資料の中から次の資料を選定し, 図書館長了承のうえ購入した。

- 全国商工会議所関係資料 第 I 期 DVD 全 30 枚

また, 2014 年 2 月 25 日に第 2 回選定分科会を開催し審議を行い, その結果, 次の資料を選定し, 図書館長了承のうえ, 図書館図書費全体の年度末末執行予算から予算振替を行い購入した。

- 岩田豊樹旧蔵資料一括 古地図 計 15 件(計 27 点)

(購入内容は, 別項「図書館特別資料購入一覧」にも記載。)

2.3 電子資料分科会

2013 年度より会議体名称が委員会から分科会へ変更になった。開催は下記のとおり。

第 1 回(7 月 30 日) 新規学習用雑誌購入検討

エルゼビア社サイエンスダイレクトの次年度購読タイトルについて

上記選定の結果, 新規学習用雑誌 11 誌(うち和 10 誌, 洋 1 誌)を新規契約・購入した。

研究用雑誌・新聞, バックナンバー, 電子資料については, 2013 年度は新規購入申込を停止している。

エルゼビア社との契約形態について, 当分科会の下部組織である雑誌・電子ジャーナル契約検討ワーキンググループからの案を承認した。すなわち, 2014 年度の購読タイトルは, ダウンロード単価が論文毎の購入費用(1,200 円)よりも安価なタイトルのみに減らす。購読していないタイトルは, 前払購入したトランザクションで論文毎に購入可能とする。

2.4 図書館基礎資料選定分科会

2013 年 12 月 19 日に選定分科会を開催し, 候補資料について審議の上, 資料を選定し購入した。また, 図書館各種文庫・分科会からの推薦資料も対象にした追加募集を行い, 2014 年 2 月 21 日に第 2 回選定分科会を開催し, 追加募集分選定候補について審議の上, 資料を選定し購入した。

(購入内容は別項「図書館基礎資料購入一覧」の通り。)

2.5 アフリカ文庫選定分科会

7月17日に第1回分科会を開催し、図書の選定を行った。2013年度は184冊の図書を購入した。

イベントでは、10月30日にリバティアカデミーオープン講座との共催で、「ブルキナファソの大地から、日本の大地へ」と題し、グローバルホールにてレクチャー付コンサートを実施した。ブルキナファソ、グアン族に継承される葬送儀礼の奏者として育ったバラフォン奏者、ムッサ・ヘマ氏率いる「Kaba-Ko カバコ」の迫力ある演奏とグアン族伝承の文化、世界観にまつわる講義に、観客数約200名が来場し大盛況となった。

2.6 蘆田文庫選定分科会

例年のとおり、定例の分科会の開催は最小限にとどめ、相互の連絡による機動的な選定活動を行った。本年度は以下の資料を選定した。

- 袖珍輿地指南 / 原精一編輯；上：東半球之圖，下：西半球之圖。――原精一，1877
- 東半球・西半球。――[製作者不明]
- 西部日本古地圖。――[書写者不明]
- 本所深川細見圖 / 南美原子感図。――再刻新版。――出雲寺和泉掾，1767
- 江戸鳥瞰図 / 一宝斎国盛(二代目)画。――[製作者不明]
- 番罫繪圖 / 狐阡瀬貞雄，鼈峰依爲質編輯。――美濃屋平七，1755
- Io. Davidis Koeleri hist. et polit. pp. Altdorfini , Atlas manualis scholasticus et itinerarius : complectens novae geographiae tabulas L ― Christophoro Weigelio, 17―
- 安南國漂流物語。――[書写者不明]

2.7 江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果、購入した資料は以下のとおりである。

- 恋福引
- 先開梅赤本
- 名代振袖
- 綴合於傳假名書
- 花洛中山城名所

また、図書館基礎資料費にて以下の資料を購入した。

- 牛店雑談安愚樂鍋
- 小倉山青樹榮昔日新話
- 菊種延命袋
- 鼠袂甲子真聞
- 水錦隅田曙
- 格蘭氏傳倭文賞

2.8 ケベック文庫選定分科会

カナダケベック州政府の助成金と本学拠出金を合わせて、ケベック文庫資料を購入してきたが、2010年にケベック州政府の助成が中止となった。以後、図書館として予算を確保し運営を行ってきたが、選定活動は停滞ぎみであった。2013年11月、委員会委員長であった小畑精和政治経済学部教授が死去され、ご遺族からケベック州関連蔵書が文庫に寄贈された。2014年1月にはケベック州貿易大臣一行の来訪、ケベック文庫の見学があり、その存在が再度確認される出来事であったが、明治大学におけるカナダ・ケベック州研究の推進者であった小畑前委員長の遺志を継ぎ、図書館としてもケベック文庫の充実を再度図る必要があろう。

2.9 日本近代文学文庫選書分科会

7 月に委員会を開催し、日本近代文学文庫選書基準(案)および選書方法を確認した。年度末の追加購入を含め、全 23 点の資料を購入した。2013 年度の主な収集資料は以下の通りである。

- 小扇 / 與謝野晶子. — 金尾文淵堂書店, 明治 37
- 詩集 鱸沈む / 金子光晴, 森三千代. — 有明社出版部, 昭 2
- 泉鏡花集 / 泉鏡花. — 春陽堂, 昭 4
- 思弁の苑 / 山之口獏. — むらさき出版部, 昭 13
- 孤寒 / 種田山頭火. — 杖社, 昭 14
- 満州征旅 / 山口誓子. — 満州雑誌社, 康德 11 [昭 19]

2.10 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2013 年度も、継続して著作権者への許諾書発送, および許諾論文のメタデータ, PDF データの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物, 博士論文である。登録論文件数は 12,000 件を超えた。公開の詳細はリポジトリHPから参照できる。

学内でもリポジトリへの関心が高まっており, 他部署との許諾, コンテンツの電子化について連携協力体制が構築できている。2013 年より博士論文のインターネットでの公開が義務化されたため, 大学院事務室と調整して機関リポジトリでの博士論文の受け入れ態勢を整備した。

2.11 図書館紀要編集部会

第 18 号を刊行した。(A5 判 266 頁 2014 年 3 月 31 日刊行)

2013 年 9 月 30 日～10 月 7 日にメール審議にて部会を開催し, 編集方針等の確認を行った。

今年度からの新しい取り組みとして, DTPソフトウェアを導入し, 二校以降は基本的に編集部会事務局が直接修正作業を行った。これにより, 編集作業は全て業者に任せていた前年度までに比べて, 校正の速度が大幅に改善され, 経費が削減されたことはもちろん, 著者と編集者が直接やりとりをすることによる細かな意思疎通が可能となった。

2.12 書評コンテスト選考部会

応募要領を 7 月に公開。9 月下旬に 4 図書館で計 7 回の「書評の書き方講座」を行い, 合計 30 名が参加した。募集期間は 10 月 1 日から 31 日までであり, 39 編の応募があった。4 図書館事務室有志の協力による予備審査を経て, 12 月 7 日に選考部会を開催し, 最優秀賞から佳作まで 12 名の受賞者を選定した。2 月 3 日に中央図書館グループ閲覧室で授賞式を行った。その後, 受賞作品をHPに掲載したほか, らいぶ別冊特集号「第4回明治大学図書館書評コンテスト受賞作品集」を刊行して配布した。5 月に中央図書館1Fエントランス内側に「書評コンテストコーナー」を設置し書評対象作品を展示することにより, 図書の貸出を促進した。

2.13 生田図書館ギャラリー運営部会

2014 年 2 月 27 日開催。2014 年度展示企画として応募のあった 7 件(理工学部 5 件, 農学部 1 件, 先端数理科学研究科1件)についての開催が承認され, 図書館主催企画を含めた年間スケジュールを決定した。11 月が未定のため, 6 月に再募集を行うこととした。

2.14 図書館活用法タスクフォース

学部間共通総合講座「図書館活用法」の円滑な運営と講座担当者の資質の向上を目指して活動した。授業評価を目的に履修者アンケートを行い, 初年次に履修することが望ましいという結果になった。和泉キャンパス開講「レポート・論文の書き方」の評価の方法としてループブックを用いた試験的作業を行った。一方, 講座担当者の SD 研修を行った。(1.8 リテラシー教育事業(2))さらに, 初年次リテラシー教育の研修会と「評

価」をキーワードにした学内関連部署との合同の研修会を開催した。内容(抜粋)は次のとおりである。

(1) 2013 年度後期 初年次リテラシー教育研修会

日 時:2014 年 1 月 31 日(金) 15:00～17:00 会場:和泉図書館ホール

テーマ:「図書館のリテラシー教育」「明治大学・学部でのリテラシー教育」「学部間共通総合講座『図書館活用法』とリテラシー教育」「UC Berkeley Center for Teaching and Learning での教育・学習支援活動」ほか

(2) 教育プログラム評価研修会

日 時:2014 年 2 月 3 日(月) 9:30～11:30 会場:駿河台キャンパス 12 号館 2052 教室

テーマ:「学生の学びを支援する自己点検・評価」「『図書館活用法』授業効果評価の取組み」「eラーニングを活用した授業(メディア授業)の評価」「ルーブリック評価の策定と運用ー国際協力人材育成プログラムを事例としてー」「UC Berkeley Center for Teaching and Learning での教育評価活動」ほか

2.15 利用案内編集分科会

2014 年度の利用案内について、下記のとおり刊行した。

①「利用案内(学生用)2013」(A5 変形型, 28 頁, 14,000 部)

②「教員用利用案内」※学内印刷にて印刷 (A4 版, 16 頁, 450 部)

③「文献の探し方」※学内印刷にて印刷 (A4 版, 10 頁, 1,000 部)

「OPAC ユーザーズガイド(冊子版)」については、前回の印刷残部があったため、それを活用することとした。「OPAC ユーザーズガイド(ダイジェスト版)」については、残部を使い切り、改定版については、2013 年度は印刷しないこととした。ダイジェスト版の活用実績や必要性について次年度の検討事項とした。

今後の課題として、さらなる印刷費節減のため、WEB 公開への移行、OPAC ユーザーズガイドの分冊発行による外注から学内印刷への切り替えなどの検討が必要であることを確認し、次年度検討を行うこととした。

2.16 「らいぶ」(図書館報)編集分科会

2013 年度号(通算第 20 号)を発行した。記事は、「図書館活用法」履修のすすめ、図書館および教員からのメッセージ、各図書館(中央・和泉・生田・中野)の館内マップおよび貸出ランキング、体系的な情報収集のための図書館活用術、等。新入生を主な対象に学生向けの平易な読み物に仕上げた。A4 版, 12 頁, 8,000 部。2014 年 3 月発行。

なお、書評コンテンツ受賞作品集を、2013 年度よりらいぶ別冊特集号として発行した。A4 版, 16 頁, 300 部。2014 年 3 月発行。

2.17 オンラインサービス WG

2013 年度は、以下の通り WG を開催した。

第 1 回(2013 年 6 月 21 日)主な議題:SFX ターゲット設定・更新作業分担、無料電子ジャーナルの取り扱い、広報手段、ディスカバリーサービス、HP 分担確認・HP 更新

第 2 回(2014 年 1 月 16 日)主な議題:SNS 運用内規策定、EJ 契約変更(Elsevier)に伴う広報等について電子リソース提供に関して、リンクリゾルバの設定や図書館 HP の更新作業の他、SNS を含めた多様な広報手段を利用している現状では、実際の設定や各事例への対応についてはメーリングリストなどでの連絡手段を通じて作業を行っているものの、上記のような課題について全体の分担確認や、今後の方針を定めるために 2 回会議を開催し直接討議を行った。

2.18 雑誌・電子ジャーナル契約検討 WG

2013 年 3 月より電子資料分科会の下に「雑誌・電子資料契約検討ワーキンググループ」を形成し、逐次刊行物費の価格高騰への抜本的対応策を策定し、さらにその対応策を実施することを目的に検討・作業にあっている。下記の活動を経て、2014 年 4 月 1 日よりエルゼビア社サイエンスダイレクトのビッグディール契約

を破棄し、論文毎の購入契約(トランザクション方式)へ移行した。

[2013 年度の主な活動]

- 4 月 5 日 総合数理学部 新任教員説明会(図書館主催)
- 4 月 8 日 第 1 回キックオフ・ミーティング
- 4 月 10 日 東邦大学医学メディアセンターでの聞き取り調査
- 4 月 16 日 商学部執行部会での説明
- 4 月 17 日 和泉委員会での説明
- 4 月 22 日 第 2 回ミーティング
- 4 月 22 日 東京理科大学 神楽坂校舎 図書館での聞き取り調査
- 4 月 25 日 農学部教員有志・有力使用者への説明
- 5 月 10 日 理工学部総務委員会での説明
- 5 月 13 日 第 3 回ミーティング
- 5 月 24 日 上智大学中央図書館での聞き取り調査
- 5 月 28 日 第 4 回ミーティング
- 6 月 19 日 第 5 回ミーティング
- 7 月 3 日 電気通信大学附属図書館での聞き取り調査
- 7 月 10 日 第 6 回ミーティング
- 7 月 19 日 経営学部教授会での説明
- 7 月 24 日 第 7 回ミーティング
- 10 月 3 日 第 8 回ミーティング
- 10 月 4 日 国際日本学部教授会での説明
- 11 月 8 日 第 9 回ミーティング
- 12 月 2 日 第 10 回ミーティング
- 12 月 18 日 第 11 回ミーティング
- 1 月 30 日 第 12 回ミーティング
- 2 月 20 日 第 13 回ミーティング
- 3 月 13 日 第 14 回ミーティング